

Human Rights Now <http://hrn.or.jp/>

地球上のすべてのひとたちのかけがえのない人権が守られるように



- ビルマ・ピースローアカデミー卒業式……………①②
- 広がる!活動の輪……………③
- 活動報告……………④⑤⑥
- ヒューマンライツ・ナウな人たち……………⑦
- ★HRN's eye……………⑧

2011年3月11日(金)に発生した東北地方太平洋沖地震および福島第一原発事故により、被災された方々、ご関係者、ご家族の皆様にお見舞い申し上げます。亡くなられた方々に謹んでお悔やみを申し上げます。被災地のみなさま、また日本全国のみなさまにとって一日も早く安心できる日が来ることを心よりお祈りいたします。

既に震災発生直後から、多くのNGO・NPOが現地入りして救援、支援活動を行っております。今回の大震災に対しまして、ヒューマンライツ・ナウ(HRN)では当団体のビジョン、ミッションに照らし合わせ、被災された方々の権利保護のためにアドボカシー活動を展開して参ります。HRNは、先日3月30日に設立いたしました「東日本大震災支援全国ネットワーク」に参加登録いたしました。<http://www.jpn-civil.net/> 現地ニーズの情報収集を行ったうえで、随時アクションを行ってまいります。みなさまにはウェブサイト、メールマガジンなどでお知らせさせていただきます。同時に、世界の人権状況の問題にも引き続き取り組んでまいります。今後とも、みなさまのご理解とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

HRNが支援してきたピースローアカデミーの学生たちがついに卒業! みらいの法律家たちの門出

門出の日を迎えた学生たち

2011年1月15日、ヒューマンライツ・ナウ(HRN)の「みらいの法律家プロジェクト」が支援してきたタイ・ビルマ国境にあるメイソットの法律学校「ピースローアカデミー(PLA)」

の学生たちが卒業式を迎えました。この日のために着飾った学生たちが2年間の努力の証として一人ずつ卒業証書を受け取っていきます。

2年前にビルマ(ミャンマー)各地からタイのメイソットに集まって来た学生たち。

「もうこんなところは離れて、日本に行って暮らしてみたい」と一年目の途中で弱音を吐いてしまう学生や、故郷に残した恋人に2年間待っていてくれと約束をしてやってきた学生もいました。

そんな学生たちが、法律や英語の授業、そしてHRNから派遣された日本の法律家らの講義など2年間のカリキュラムを修了し、無事、卒業の日を迎えることができました。



卒業後の進路は—

卒業後の進路は様々です。自分の民族の組織に戻って活動する、タイの難民キャンプで教師になる、どうするのかまだよく分からないけどビルマ国内に戻る、タイや他の国でさらに勉学を続ける—。

あきらめ混じりに「ここを卒業しても学位としては認められないから」という学生がいました。

ビルマでは2008年に新しい憲法が制定され2010年に20年ぶりの総選挙が行われましたが、どちらも形式的に民主主義を装ったもので、軍事政権による独裁は今なお続いています。軍事政権の下では、亡命したビルマ人がビルマ国外に設立した学校の権威は認められておらず、そんな中で学生たちがビルマに戻っても進路を定めることは容易ではありません。

ビルマ国内に戻るのは危険なため、タイにある難民キャンプで教師をするという学生もいます。古くからの難民キャンプは20年以上も続いているところがあり、そこで生まれ育つ子どもたちがいますが、キャンプの中の教育は充実しているとは言えません。そんな子どもたちに勉強を教えたいということです。中にはビルマに戻って弁護士になると決意している学生もいました。ビルマで弁護士になることはかなり難しいことで、また、たとえ弁護士になれたとしても、軍事政権に批判的な言動をすれば、不当な介入や圧力を受けることが予想されます。それでも民主主義や人権擁護を少しずつでも内側から実現しているという決意をしているようでした。

帰る場所がなくなりました

もっとも困難に直面していたのは、戻るべきところがなくなってしまった学生でした。タイで2年間学んでいる間に自分が所属していた少数民族の組織が軍事政権と妥協してしまったのです。



2010年11月に行われた選挙に向けて少数民族を取り込もうとした軍事政権は、国境地帯で抵抗を続ける少数民族の組織の部隊に対して国境警備隊への編入を迫り、永年の抵抗に疲弊した組織の中には圧力に屈するものもありました。その一つに、PLAの学生の所属する組織も含まれていたのです。彼が組織に戻っても、民主主義をとえたり、人権侵害を国外に訴えることは難しくなっていました。本来、軍事政権の抑圧に対抗するための知識を身につけるためにタイまでやってきて2年間も勉強をしていたのに。彼だけでなく、多くの若者が政治情勢の流れに翻弄されているのが現実です。

来年に向けて

それでも、故郷を離れて同級生と寝食をともにしながら過ごした2年間は決して無駄にはなりません。これまで接触がなかった他の民族の若者と一緒に暮らし、それぞれの違いを知って理解し、外国からの知識を取り入れて、国際的な感覚を身につけたことは、学生たちの糧となり、みらいのビルマを変えていく力になるはず。このような若者たちが力をつけて民主的で自由な社会を作り上げていくことが期待されます。

4月には新しい学生たちが入学してきます。HRNは、引き続きPLAに講師を派遣して、新しい学生たちのために支援を行っていきます。

“ビルマに戻って弁護士になる”
みらいのビルマを変えていく力に—

